

「大人から子どもたちへ お祝いプロジェクト」

小学校卒業祝いと亡き友へ 宇陀市 思い乗せ夜空に大輪の花

宇陀市内の小学6年生の卒業祝いと、1日も早い新型コロナ終息を願い、今月19日夜に同市榛原萩原の総合体育館横の野外で開催された「大人から子どもたちへ お祝いプロジェクト」(うだかなえば主催)。多くの卒業生や保護者が車で駆け付け、密にならないように駐車場での車内やそのそばから、15分間の打ち上げ花火を観賞した。その中の一人、主催者代表で同プロジェクト実行委員長の桶谷一成さん(47)＝同市榛原自明、そば・菜食処「一如庵」店主＝は、長年の闘病生活の末、今年1月19日に亡くなった卒業生の「パパ友」に「健(たけし)くん、やったぜ」と無言の讃歌を心の中で響かせていた。わが子と共に、夜空に咲く大輪の花を見たかったであろう友に「この2カ月、健くんと一緒に走ってきたんだよ」と優しく声を掛けた。

桶谷さんが経営する一如庵は平成23(2011)年から8年間、ミシュランガイド「二つ星」に選定されるほどの名店。桶谷さんは、下の娘の小学校卒業が迫ってきた昨年から、この1年間コロナ禍で運動会も縮小、他のイベントも何もできなかったことへ心を痛めていた。

「今年の卒業生はかわいそうだ。何かできることはないか」と、イベントができる手掛かりがないものかと動いたものの、開催への糸口になど着くことができず、半ば諦めかけていた。

それでも「今の卒業生は今でしかない」と気持ちを取り戻し、ついに企画書を書き終えたのが1月19日早朝だった。その時、妻から自分の娘と榛原東小で同じ男子卒業生がいる「パパ友」の中村健さんの死が知らされた。40歳の若さだった。仏壇に手を合わせ、「健くんの分も頑張るからね」と誓った。

そして、市教育委員会生涯学習課や、学校

会場ではホットドック、パン、コロケなどの飲食店も出て卒業生を歓待



卒業生にインタビューのマイクを向けるボランティア



う」のメッセージがじーんと伝わってきた瞬間だった。

桶谷さんは「このイベントが終わった瞬間、夢のような思いになった。いろんな思いが込み上げてきた。この一日のために頑張れること。それも、一人の力ではできないこと。ワンチームだからできたこと。子どもというのはやりたくてもできない、大人が子どもたちに愛情で動く行為として伝えることが大切なこと。これらが一番のメッセージとなり、うまくやるのができたとと思う。健くんが亡くなって2カ月。天国では笑顔で喜んでくれてるに違いない」と目を熱くした。

主催者代表の桶谷さん「ワンチーム」に感謝

ンチームとなった。足場を組んで、農家から持ち込んだ布製の寒冷紗(かんれいしゃ)で縦4・5畳、横7・5畳のスクリーンを手作りした。いよいよ本番が迫ってきた。

19日は午後6時半から、奈良芸術短大制作の芸術作品のスクリーン上映。卒業生24人と保護者56人のメッセージも流された後、同7時からグラウンド上の打ち上げ花火が次々と夜空に上がった。

そしてエンディング。エンディング曲に選んだのが、健さんが好きだったBizの「Calling(コーリング)」。「桶谷さんにしか分からない、健さんからの「ありがとう」



手作りのスクリーンには、奈良芸術短期大学生制作の作品も上映された(いずれも宇陀市榛原萩原で)



色とりどりの打ち上げ花火

